



## シンポジウム実行委員長

佐々木 卓治 (ささき たくじ)

東京農業大学総合研究所教授。理学博士。専門はゲノム農学。

(独)農業生物資源研究所在職中イネゲノム解析に携わり、国際イネゲノム塩基配列解読プロジェクトリーダーを務める。

日本農学賞受賞。

2013年3月、国際農業研究協議グループ(CGIAR)の研究戦略策定に携わる「独立科学パートナーシップ理事会」(ISPC)の理事に就任。



## 第1報告

伊東 正一 (いとう しょういち)

九州大学大学院農学研究院教授。専門分野は国際食料需給政策論。

世界における食料供給の現状と潜在力を研究。コメを中心とした穀物の国際需給、貿易、アメリカの農業政策に関する論文など多数。

ホームページ「世界の食料統計」に、穀物の需給動向と国際価格の推移、種々の研究成果を世界200カ国・地域に及び統計グラフと数値を4ヶ国語(英語、スペイン語、中国語及び日本語)で世界に提供。



## 第2報告

Qian Qian (チェン チェン)

中国水稻研究所副所長。

遺伝資源研究領域首席科学者、水稻生物学国家重点実験室主任。

専門はイネ分子育種。北海道大学農学部で植物育種学(修士)を学び、帰国後農学博士号取得。

浙江省杭州市にある中国水稻研究所において長く水稻育種に携わる。

国家科学技術奨励賞2件受賞。中国農業科学院在籍。



## 第3報告

Chuong Sophal (チュオン ソファル)

カンボジア王立農業大学農学部部長。

土壌保全および灌漑システムが専門。

IRRI(国際稲研究所)でコメ生産に資する灌漑システムの研究に従事。

カンボジアにおけるコメ栽培の集約化システム、コメ生産における木炭の効果分析、低利用コメ品種の発掘とその評価に関する研究など多数。



## 第4報告

池田 良一 (いけだ りょういち)

東京農業大学農学部農学科教授。農学博士。

専門はイネ遺伝育種学。

トビイロウンカ抵抗性イネや白葉枯病抵抗性イネの育種に長く携わる。

近年はネリカ米(NERICA, New rice for Africa)の普及に努め、アフリカに滞在することが多い。日本育種学会賞受賞。



## 第5報告

芦苺 基行 (あしかり もとゆき)

名古屋大学生物機能開発利用研究センター教授。農学博士。

専門はイネ分子遺伝育種学。イネゲノム情報を活用し、イネ収量に関連する量的遺伝子座に存在する多くの遺伝子の単離同定に成功している。

現在それらの遺伝子を発展途上国のイネ育種に利用するWISHプロジェクトを主宰する。日本学術振興会賞および日本育種学会奨励賞受賞。



## 第6報告

板垣 啓四郎 (いたがき けいしろう)

東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科教授。

博士(農業経済学)。専門は農業開発経済学、国際フードシステム、アジア農業など。

現在、国際農業開発学科学科長、総合研究所研究支援部長、実践総合農学会事務局長など。